

一九七七年、病に悩み、友人から渡された木片を削り始め、理論的なものから解放される。



ヨルク・イン・シンドルフと出会い、一九七八年ケルンで二人展を開催。その後またたびが共同制作を行つた。



一九七九年、最初のレコードを発売。フリージターのレコーディングに参加するなど、音楽活動も精力的に行つた。



一九八〇年、東ドイツでの周辺環境が悪化し、ケルンへ移住。

展示拒否
検閲
作品没収
ピーアマンの市民権申請
シュトゥーゲンに於ける監視
—もうムリ!

マルクス・リュネヘルツ、ペール・キルケビーと友達になり、

ペール・キルケビー

ヨゼフ・ボイスの元を訪ねる。



「フランスや大理石を用いた彫刻や版画など様々な素材や媒体で制作。」



「記念碑、分析されたドイツ」1986

版画



「夜の光景」1982

雑誌



「音火口と雲」1982-90

「先史時代のニクストノル」
「ニュー・グレンジ」
「THE DOOR」
「ストーンヘンジ」

リラクした生活を求め、イギリスとアイルランドに拠点を移す。

新たな絵画の動向を取り上げ、世界的に注目を集めた「パニースピリット・イン・ペインティング」展(ロンドン王立美術協会、一九八二年)、「ツァイトガイスト展(ベルリンマルク・シタットプロボウス・バウ、一九八二年)への参加により、パセリクワズ・イン・シンドルフ、アンゼルム・キープラー、リュネヘルツと共に、新表現主義を代表する西ドイツの画家として紹介されるようになる。



一九八九年より、デュッセルドルフ芸術アカデミーの教授となる。(二〇〇五年まで)
教える子は130人にもぼり、その中には、奈良美智も。



一九八七年、日本で「マンク展」開催。
広島市現代美術館
世田谷美術館
高知県立美術館

二〇一七年五月二日、スイスのチューリッヒでセサセオで七くなる。



近年、A.K.ペンクは、その活動を振り返る研究や展覧会を通して再評価されつつある。